

今回のテーマは「蜘蛛」です。

クモは、多くの方に気味悪がられる気の毒な生きものですが、それはあくまでも屋内に現れた場合のことで、野外で出会う彼らは、人の気配を感じるとすぐに葉陰などに逃げてしまふ、内気なやつなのです。

でも…

彼らの張った網が顔にかかったりすると、おもわず怒りがこみ上げてしまうのです…

“ああ～ 鬱陶しいなあ。人が歩くところにクモの巣なんか張るなよ！” と…

よくよく考えてみると、蜘蛛の方こそ大迷惑でしょうね。せっかく手間暇かけて張り巡らした「わな」なのに、いきなり現れた巨大な人間が破壊してしまうのですから…

“ああ～ たまらんなあ。どこ見て歩いてんねんっ！” って…

さて、「クモ」は昆虫図鑑に載っていたりしますが、厳密には昆虫の仲間ではありません。

脚の数は8本、頭部と胸部の境界が不明確、そして触角を欠くことなどが昆虫との大きな違いでしょう。

また、「クモ」は毒を持っているので噛まれると危険だ、と思われている方もいますが、本当にそうなのでしょうか？

多くのクモは確かに虫を殺す程度の毒は持っているのですが、人間に影響を与えるほどの種は世界でも数種に限られます。(近年、セアカゴケグモが我が国にも侵入しましたが…)

ましてや人間を殺すほどの毒を持つ種はほとんどいません。

在来種のほとんどのクモは、人の皮膚を貫くほど大きな毒牙自体を持っていませんのでご安心ください。(ただし、「カバキコマチグモ」だけはご注意ください)

◆写真①～④： ゴミグモ

◇体長1～1.5 cm (♀) です。(♂はもっと小さいです)

◇円形の大きな網を張り、その中央にゴミや脱皮殻、食べかすなどを縦線上に重ねた太い帯を作りますが、その帯の中に身を潜めていますので、どこにいるのかわかりにくいです。

◇近寄っていくと… 3枚目の写真あたりでクモの位置がわかりますね。

◇4枚目は接写したのですが、どうも“イボイノシシ型の貝殻をかぶったヤドカリ”のような形のクモでした。

◇網に獲物がかかると、潜んでいた帯上からすばやく走り寄って、ぐるぐる巻きにするのです…

◆写真⑤～⑧： スジアカハシリグモ

◇こちらの種は、網を張らずに脚力で獲物を捕らえるタイプです。

◇体長は1.5 cm (♀) くらいで、山地の溪流沿いなどでよく見ることができます。

(身近でよく見かけるのは「イオウイロハシリグモ」という種です)

◇6枚目の写真は、イモムシを補食しているところのようです。

◇7・8枚目の写真は、♀が卵を糸でくるんで卵囊とし、これを口にくわえて持ち運んでいるところです。

◇幼生が生まれる少し前になると、低木や草の葉の下に、籠網のような形に糸を組んで、その真ん中に卵囊をぶら下げるそうです。

◇卵囊から幼生が出てくると、幼生はしばらくの間、その卵囊のそばでかたまりになって過ごし、やがて葉の上に登り、糸を風に乗せて飛んでゆくようです（ハルーンク）。

◆写真⑨・⑩： 抜け殻

◇スジアカハシリグモを見つけた近くに、こんなクモがいました。

接写しても無反応ですので、思い切って触ってみると…

◇抜け殻でした。

おそらくスジアカハシリグモの脱皮殻だと思います。



















